

で開催しました。昨年は新型コロナウイルス感染により中止したため、2年ぶりの開催になりました。「地域が求める連携と医療マネジメントの重要性」をテーマに、チーム医療、IT/情報、看護、経営マネジメント、医療安全・安全管理の5セッションで計22演題の発表がありました。コロナ禍での取り組みに関する最新報告もあり活発な討議が行われました。



会場風景

特別講演は「パスと地域連携ーいま昔ー」と題し、東京医療保健大学副学長 小西敏郎先生より講演をいただきました。また、ランチョンセミナー形式で「胃癌治療と医療安全」と題し、岩手医科大学医学部医療安全学講座教授 肥田圭介先生より講演をいただきました。現地参加44名、Web参加19名の計63名の参加をいただき無事盛会で終わりました。

開催にあたってご協力をいただきました関係各位の皆様へ心より感謝申し上げます。

### 第26回岡山県支部学術集会

学術集会会長：岡山市立市民病院院長 松本健五

2021年10月16日(土)に岡山市立市民病院を会場として開催しました。新型コロナウイルス感染症流行を契機に、災



会場風景

害や感染症を克服した後に、医療体制をどう考えるべきか、病院運営持続のためには何が必要なのか、を考える機会も増えてきています。そこで、今回は学術集会テーマを「未曾有の危機に備えるBCP(事業継続計画)～ビヨンドコロナ時代に医療機関はどう立ち向かうか?～」として、特別講演やシンポジウムの企画、一般演題の募集を実施しました。

特別講演では、東北大学の石井 正先生より「東日本大震災時における災害対応経験とその後の災害医療の進化」と題したご講演、まび記念病院の村上和春理事

長より「西日本豪雨災害からの復興、教訓を生かした今」と題したご講演をいただきました。

また、シンポジウムではテーマを「ビヨンドコロナの歩み方 ～パイオ災害との闘い～」として、岡山県保健福祉部の光井 聡先生、岡山市立市民病院の西村祐枝副看護部長、津山中央病院の藤田浩二先生から発表をいただき、貴重な意見の交換ができました。

最後に44題の登録があった一般演題から8題の「優秀演題賞」の発表が行われ、盛会のうちに終了しました。

新型コロナウイルスの影響で、会場とネット配信のハイブリッド形式の開催となりましたが、143名ものご参加をいただきました。ご参加いただいた皆様、演者・シンポジストの皆様、関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

### 第20回山口支部学術集会

学術集会会長：山口県立総合医療センター院長 武藤正彦

2021年11月13日(土)防府市の山口県立合医療センターにおいて第20回山口支部学術集会を開催し、102名の参加を頂きました。



会場風景

本学術集会ではテーマを「地方における医療・介護の将来を考える」とし、一般演題(口演)8題、クリティカルパス展示6題の他、特別講演及びシンポジウムを行いました。

特別講演では全国自治体病院協議会名誉会長 邊見公雄先生にWebでご参加頂き、「生命輝かそう山口県の医療人」～地域包括医療・ケアの時代に～(コロナ後の社会を見据えて)と題し、約1時間のご講演を頂きました。

また、シンポジウムでは「地域の医療と介護を支える現場から」というテーマで4名のシンポジストをお招きし、医療、看護等の視点からそれぞれの取り組みや提言を発表して頂きました。

本学術集会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当初予定していた開催場所を変更し、ハイブリッド形式での開催としました。

開催にあたりご指導とご協力いただきました関係各位へ感謝申し上げます、報告といたします。